

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300864
法人名	有限会社 三幸
事業所名	グループホーム つしま
所在地	愛媛県宇和島市津島町高田甲83-1
自己評価作成日	平成24年5月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自己評価、外部評価を重ねるごとにさまざまな改善点が浮かび上がってくるため、自事業所においては、毎回全職員で話し合い改善点を見つめなおしサービスの質の向上に繋げるよう取り組みを行っている。いつもその結果として現在の生活は誰にとっても良いものであるべきかということにたどり着く。それはご本人が中心であるということ、自宅に近い暮らしができ、希望に応じては看取りにも取り組んでいきたいと思う。そのために職員は、入居されている方や、そのご家族との信頼関係が築けていけるよう努めている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●地域包括支援センター主催の地域構築事業「認知症フォーラムinつしま」では、他グループホームと合同で認知症の理解を深めていただけるよう寸劇をされた。又、徘徊模擬訓練では、市の担当者が認知症の人役になって徘徊し、地域の方は、「本人に声をかける」ことを体験された。職員は、その様子を見守り、声のかけ方等についてアドバイスをを行い、正しく認知症を知ってもらえるよう取り組まれた。</p> <p>●利用者の行きたい場所をお聞きすると「生まれた所」という希望が多く、ご本人が行きたい時に出かけられるような支援に努めておられる。お墓参りの希望は、ご家族が職員が同行されており、又、週末のたびにご家族が迎えに来られて、ご自宅に1泊される方もある。退居や亡くなられた利用者のご家族が、現在も訪ねて来てくれており、思い出話をされたり、時にはボランティアで日曜大工をしてくださったり、カラオケを楽しむ際にお手伝いに来てくださっている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つしま

(ユニット名) やまもも

記入者(管理者)  
氏名 土居松美

評価完了日 平成24年 5月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 入所者さんが穏やかにその人らしく暮らせるよう支え、家族に信頼して頂けるよう、努力している。その理念は、職員間においてもサービスの意義や役割を踏まえたうえで共有し実践に繋げている。	
			(外部評価) 事業所では、「穏やかにその人らしく過ごせる日々をお手伝いします」「寄り添い ともに歩き ぬくもりのある生活を支援します」と、理念を作成し、管理者は、理念は事業所の「ケアの基本」であることを職員に話しておられる。ミーティング時等、支援が難しいケースを検討する際には、特に理念に沿って考えるようにされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会の会合や地域のお祭り等に参加させて頂いて、地域とのつながりを続けられるよう交流している。	
			(外部評価) 事業所前の道は通学路になっており、利用者は、朝・夕に、子ども達の登下校する姿をみておられ、春には、新一年生が元気に登校する姿を楽しみに眺めておられる。毎年、小学校の社会科学習の訪問を受け入れておられ、後日、児童からお礼の絵手紙が届いたり、遊びに来てくれる子どももあるようだ。近所の方が、季節の花を途切れることなく届けてくださっており、調査訪問時には、玄関先のかめに、びわやグミの大きな枝を飾ってくださっていた。又、周囲の田には、刈り入れ後、コスモスを植えてくださり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 推進会議等を通じて話をしている。また職員も、地域で取り組んでいる認知症フォーラムに参加して地域の人々と共に支援の方法を学んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では毎回ホームの行事、日常生活の様子を報告している。また会議で提案された事を実践している。	時には、事業所のサービスを利用する側であるご家族が会議に出席しやすいよう、日程を調整することはできないだろうか。メンバーの方達とも相談されてみてはどうだろうか。
			(外部評価) 会議は、2ヶ月に1回、第3水曜日に開催することと決めておられ、地域からのメンバーも会議をご自分のスケジュールに組み込んでくださっている。ご家族の了解を得て、利用者は、交代で会議に参加されているが、ご家族は、会議の日程上、仕事等の都合のつく方がおられないようで、現在は、会議内容の報告のみとなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 頻繁に連絡を取り合い、入所者さんの相談にも対応して頂いている。また二か月に一度介護相談員を受け入れている。	地域包括支援センター主催の地域構築事業「認知症フォーラムinつしま」では、他グループホームと合同で認知症の理解を深めていただけるよう寸劇をされた。又、徘徊模擬訓練では、市の担当者が認知症の人役になって徘徊し、地域の方は、「本人に声をかける」ことを体験された。職員は、その様子を見守り、声のかけ方等についてアドバイスを行い、正しく認知症を知ってもらえるよう取り組まれた。
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない事をすべての職員が理解しケアをしている。	入居の際に、利用者のご家族に、「自由に動くことの大切さとリスク」の両方について説明をされている。又、職員は研修等で身体拘束について勉強され、転倒等があった場合は、「防ぐことができなかったか」話し合っておられ、その際にも「利用者本位に考えること」を大切にされている。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待の防止や見過ごしを研修・資料等にて学び徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  親しい弁護士や、司法書士に指導して頂いている。管理者は制度を理解し相談等があれば支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には十分な時間をとり、質問を受け理解して頂けるよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  意見や要望はスタッフで話し合い改善している。又家族に対してや推進会議でも報告している。  (外部評価)  ご家族の多くが市内在住で来訪回数も多い。そのたびに現状報告や要望を聞くようにされている。年4回、発行されているホーム便りや個別の手紙・写真等で暮らしの様子を伝え、行事案内もされており、3名ほどのご家族が参加されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			2ヶ月に一度職員だけでの会議を行い主任より報告をされている。代表者は運営に関する意見や提案も聞き入れる環境を整えている。	
			(外部評価)	
			2ヶ月に1回のユニットミーティング時は、職員が気づいたことを話し合う機会でもあり、話し合われた内容は法人代表者である管理者に報告するようになっている。職員の勤務シフトについても、希望に沿えるよう検討されている。ケアや支援の提案等については、その日勤務する職員で話し合い、ノートに書き、他の職員も内容を確認することになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			時間外勤務はさせない。役割分担し業者との交流、注文を任せている。代表者は個々の努力や各自向上心を持って働ける職場環境を整え、資格取得の奨励に配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			ケアについての意見交換、GH連絡会の研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他施設見学や食事会をして交流を図っている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に見学に来ていただくことにより、ホームに対する不安等が軽減できるよう配慮している。入居後も不安や要望を傾聴し安心して暮らせるよう努力している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族の思いを理解しようと努力し気楽に話せるよう配慮している。不安や要望等についてはできる限り解決ができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前後において現在一番必要なサービスは何かを見極め、相談内容によっては他の事業所を紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事や日課を共に行い多くの事を教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御本人の体調が悪い時は御家族が夜間も付き添って協力して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所時から変わりなく面会に來たり、お墓参り等に出かけられたり、なじみに関係を把握して支援に努めている。  (外部評価) 利用者の行きたい場所をお聞きすると「生まれた所」という希望が多く、ご本人が行きたい時に出かけられるような支援に努めておられる。お墓参りの希望は、ご家族か職員が同行されており、又、週末のたびにご家族が迎えに來られて、ご自宅に1泊される方もある。退居や亡くなられた利用者のご家族が、現在も訪ねて來てくれており、思い出話をされたり、時にはボランティアで日曜大工をしてくださったり、カラオケを楽しむ際にお手伝いに来てくださっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや日課でお互いに交流が図れるよう支援している。また利用者個別に話ができる環境も整えている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で利用が終了してもお見舞い、御家族の要望で支援している。サービス利用が終了されて方からも連絡がいただけるなどの関係にある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人らしい暮らしを続ける為に、御本人の思いや希望を把握しようと努め、職員間で検討している。言葉では意思表示ができない方からも、表現や反応から希望や好みを把握できる様努めている。 (外部評価) 入居時のアセスメント時の聞き取りでは得られない情報については、日々のかかわりや会話の中から知ることができるよう取り組まれており、過去のことを話さない方も、テレビを見ている時「つぶやく言葉」にも注目して情報収集に努めておられる。入院されていたが、ご家族の、「人間らしくあってほしい」という強い希望で、事業所に相談があり、退院して入居となった事例があり、利用者が、「普段通りの暮らし」を送れるように話し合い、介護用品の検討を重ね、トイレに座ったり、食事を工夫する等して支援を重ねられ、現在では、状態や生活が改善されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族、本人からは出来る限りの情報収集をしているが、独居であった方については難しい方もおられる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入所時の情報や入所後の状況を観察し職員間で話し合うようにしている。毎日のバイタルチェックからは身体状況、心身状態等把握するよう努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・御家族の希望を中心にカンファレンスにて意見をまとめ作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者のご家族に、事業所での生活についての希望をお聞きして計画を立てておられる。利用者のご家族の希望に隔たりがある場合もあるが、事業所の理念に沿って、「ご本人が安心できる生活」に向けた支援ができるよう、計画作成に取り組まれている。状態変化時、もしくは3ヶ月～6ヶ月毎に見直しを行っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日勤帯、夜勤帯とご本人の状態を記録し、日々の暮らしやケアプランの評価を話し合い見直ししている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・御家族の状況に応じて通院、外出の支援をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方に見守りや声掛けをお願いしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入所前のかかりつけ医やホームの協力医療機関と連携を図り支援している</p> <p>(外部評価) 利用者やご家族と相談してかかりつけ医を決め、ご家族が受診に付き添われたり、職員が同行して支援されている。利用者の病状や希望によっては、管理者が同行して医師からの説明をご家族と一緒に聞くようにされている。血液検査等の結果は、データをみながら管理者がご家族に説明をされることもある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護職員に報告・相談し健康管理を行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は出来る限り面会に行き安心できるようにしている。病院側からも経過報告がある。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看取りの指針を定め、本人・御家族の希望を聞きながら、かかりつけ医を交えて話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が重度化してから、終末期のあり方等について希望をお聞きすることは難しいため、事業所では、できる限り会話ができる間に聞くようにされており、現在は、「ここがええ、どこにもいかん」と、最期まで事業所で過ごすことを希望する利用者が多いようだ。ご家族には、看取りの指針を説明し、希望を聞いておられるが、場面によって気持ちが揺れることを考慮して、医師の説明時には職員と一緒に聞く等して、ご家族の気持ちの確認等を度々行っておられる。今年は、3名の看取りを支援されており、夜勤者に負担がかからないよう管理者と看護師資格を有する職員が、ローテーションで対応するような仕組みを作り支援された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職員を中心に定期的に勉強会をしている。また緊急時マニュアルを作成し、適切な対応ができるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署と地域の協力者にも参加して頂き、避難、通報、消火を含めた昼夜の避難訓練を実施している。  (外部評価) 年2回の火災想定避難訓練時には、出火場所によって「どこから救助するか」等、消防署の方から具体的にアドバイスをいただいた。避難が終了した居室にはシールを貼るようにして、いざという時に混乱しないよう決めておられる。事業所には、約1～2週間分のゼリーやレトルト食品を備蓄されている。地域の方12～13名には、外に避難した利用者を見守り、避難場所への誘導をお願いされているが、「利用者の人数を考えると20名ほどの協力者がほしい」と、管理者は話しておられた。	今後さらに、地震や津波についての避難訓練にも取り組まれてはどうだろうか。東日本大震災の教訓を、事業所の避難訓練にも採り入れながら訓練を重ねていかれてほしい。地域で想定される災害について地域の方達とも話し合い、相互協力体制作りに向けて、具体的に取り組んでいかれてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誇りやプライバシーに配慮した声かけをしている。  (外部評価) 外部者から「～さんは、入居している？」等の問い合わせもあるが、事業所では、利用者のご家族に了解を得てからお返事をする事とされており、職員で徹底されている。ホーム便りには、個人情報載せないように気を付けておられ、個別の写真は利用者ごとに渡すようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 各担当者を中心に日常生活の中で本人の思いや希望を引き出すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	天候や体調に合わせて希望された日課を過ごして頂いている。また職員側のペースになっていないかミーティング等においては振り返りをするようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	本人の行きつけの美容院やスーパーに出掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	地元の食材を使い会話しながら一緒に下ごしらえをしたり調理、後片付けをしている。	
			(外部評価)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	健康維持が出来るように食事量・水分量を把握し健康管理に努めている。個別にファイルを作り記録も残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	食後口腔ケアの声かけ誘導している。自発的にできない方へは、出来ない部分の介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンや習慣を把握し支援している。声のかけ方ではご本人の自尊心を傷つけないような配慮をしている。 (外部評価) 食事や習慣の改善を支援して便秘しないよう取り組まれたり、「尿意を伝えられる」「職員を呼ぶ」「排尿の間隔が長い、短い」等、それぞれの排泄状況をアセスメントして、利用者一人ひとりがトイレで気持ちよく排泄できるような支援に努めておられる。管理者は、「職員にもおむつに排泄することの気持ち悪さを知ってほしい」と考えておられ、利用者の気持ちになって支援できるよう、検討を重ねておられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく薬に頼らないよう食事や水分を摂る事で便秘を解消している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 朝入浴を希望される方もおられ、本人の生活習慣やペースに合わせて支援している。 (外部評価) 現在は、利用者も職員も女性のみで、介助等も同性で支援されている。利用者は、週に2~3回入浴できるよう支援されているが、汗をかく夏場は毎日入浴される方もある。入居当初は入浴することを拒む利用者もあるが、「ちょっと手伝って」「職員を洗ってくれますか」等と、言葉かけを工夫することで入浴につなげておられる。利用者は石鹸やシャンプー等、好みの物を持ち込まれ、個々に名前を書いて使用されている。脱衣所には利用者個々の名前を記したダンスを設置しておられ、入浴前に着替えを職員と一緒に準備してダンスに入れておく方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 遅い時間まで眠れない入所者さんは夜勤者とテレビを観たり、会話を楽しまれる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	症状の変化があれば、かかりつけ医に報告し指導して頂いている。また職員は、薬の処方箋を一覧にし常に確認しご本人に手渡す際には説明が出来る様努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	得意な事でホームのお手伝いをしたり、職員と外出し気分転換を図られている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	希望の日や時間帯を聞き取り御家族や地域の方の協力を得ながら支援している。
			(外部評価)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	本人の希望により御家族の理解を得て銀行や買い物に出掛けている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	御家族や友人に手紙を書いたり、贈り物が届いたら電話をかけている。又本人で携帯電話を所持している方も居られる。



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 時計やカレンダーを見やすい位置に掛け、季節の花を生け心地よく過ごして頂けるように配慮している。共用のテレビは音量調節等において配慮している。	
			(外部評価) 事業所は、山に囲まれた田園地帯にあり、調査訪問時には、窓も開放されていて、青田を渡るさわやかな風が通っていた。プランターには、キュウリやトマトが実り、ゴーヤのグリーンカーテンも茂り、地域の方も世話を手伝ってくださっている。居間の壁には、利用者の作品や、小学生のお礼の絵手紙・お出かけの写真が飾られており、テレビは利用者の見たい番組を職員がお聞きして、スイッチを入れたりチャンネルを合わせておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) それぞれの方が自分の場所があり、自由に過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇・ソファー等馴染みの家具を置かれ、今までと変わらない居室作りをすることによって落ち着いて暮らせるようにしている。	
			(外部評価) すべての居室の窓からは、利用者にとって馴染みの山や田んぼの様子を眺めることができ、外を眺められるようソファーを設置しており、利用者は日々ゆっくりと季節の変化等を楽しまれている。入居の見学に来られ、窓から山つつじが見えることが気に入り、入居に至ったような方もいる。ご自宅から仏壇を持ち込まれている方は、ご自分のお好きな時に位牌に語りかけておられる様子もみられるようだ。家族写真や手紙、般若心経本等、思い出の品を持って来られている方もいる。車いすは、あくまでも移動手段とされて、居間で過ごす場合は、いすに座り、車いすは居室に置いておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家具の配置等を工夫し安全に暮らせるようにしている。また、廊下、浴室等においては手すりを設置し、移動の際には十分注意をしてもらうよう声掛けをしている。	